

5歳児健診にかかるアンケート

公益社団法人京都市保育園連盟
安全対策委員会

期間:令和 6 年 10 月 11 日～11 月 30 日

実施方法:インターネット

目的:5歳児健診に係る状況やニーズの把握と今後の展開に活かすため

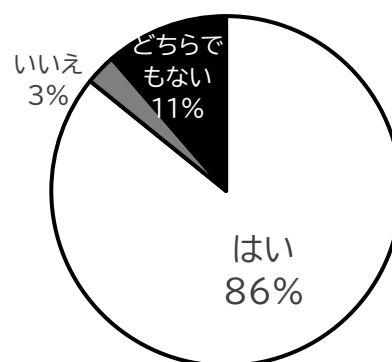
対象:京都市内の保育園・こども園の園長・職員

回答:141 ケ園 回答率:52%

※10 月までの傾向を基に 11 月よりアンケートの形式を一部選択タイプに変更、63 ケ園より回答を得る。

1. 5歳児健診は必要ですか。

はい、必要です。	121 ケ園
いいえ、不要です。	4 ケ園
どちらともいえない	16 ケ園



2. それはなぜですか。

【必要】と答えた園の回答

3 歳児健診以降、就学前健診まで健診がないから。	51	18.8%
就学前にフォローを必要とする園児を把握する機会になるから。	44	16.2%
保育園側からのアプローチでは伝わらないから。 伝えにくい保護者がいるから。	37	13.6%
就学に向けて不安を感じる保護者が増えているから。 保護者の安心につながるから。	36	13.2%
子どもの発達状況について小学校と共通理解する為に必要だから。	36	13.2%
子どもの発達状況について医師の目から見た見解がほしいから。	25	9.2%
子どもの発達が著しく、他児との違いが目立ってくる時期だから。	22	8.1%
保護者と行政との関係をつなげることができるから。	18	6.6%
その他	3	1.1%
	272	100.0%

- ・ 3 歳児健診と就学前健診の間で、子どもの現状や必要な課題を知るために必要かと感じている。
- ・ 3 歳児健診から就学前検査の間の期間が長く、4 歳 6 か月から 5 歳 6 か月の間に、集団健診をして、発達障害など心身の異常などの早期発見をすることには大きな意義がある。
- ・ 3 歳 3 カ月健診後、就学前健診まで何もないので、巡回相談等を利用はしているが、公の健診があれば、みんな受診できるので、気になることが保護者と共有しやすかったりするのではないかなと思う。
- ・ 身体的な発達以外にやはり、内面の育ちについてもしっかり把握したうえで就学に向かってほし

い。どの子どもたちにも等しく受けてもらいたい。

- ・ 就学を見据えた時にしんどさを抱えたお子さんがいる。園から話すこともあるが、健診で見てもらえたら（指摘してもらえたら）助かる。言いにくい人も実際にいる。また三歳児の健診が健診の最後になり、その時には午後からの健診でまだ眠かったや、人見知りなど幼いことを理由にしんどさの発見が遅れることもある。
- ・ グレーの子や社会性の弱い子、発達の遅れが見られる子が沢山いるが、保護者にはなかなか伝わらない現状がある。子どもたちが就学後スムーズに小学校生活を送り、授業を受け、学級に位置づくためには、健診をして発見し、保護者に知ってもらって療育などに繋げていく事が1番だと感じるから
- ・ 就学前の子どもの発達状況を把握する必要性を感じるから。視力が低い子どもが一定数いる。
- ・ 3歳7か月健診以降就学まで現状では健診がなく、一番差が出てくる時期にもう一度健診をはさんでいただきたい。
- ・ 3歳3か月健診から、就学時健診まで間があき、その間就学に向けて、身体面、認知面で悩まれる保護者もいる。
- ・ 3歳児健診の後、健診がない状態が続きますが、子どもたちは心身ともに大きく成長し、そのまま就学になるのが現状です。3歳児の時は、困りがあっても、様々な関わりから良い連携にも繋がると思います。保護者の方もまだ小さいから様子を見たいと目を背け、4、5才児になり不安になれる保護者の方も多い為、就学に向けても一度健診がある方が子ども達にとっても保護者にとっても安心へつながります。
- ・ 3才児健診以降は、集団も大きくなる中で、発達が気になる子どもの他児との違いが目立ってきます。就学に向けて不安を感じる保護者も年々増えているように感じ、保育園側からのアプローチでは伝わらない事も多々あります。保護者自ら児相などに連絡するにはハードルが高く、何も手を付けず曖昧になっているケースがあります。保護者も健診などで気になる様子を園以外の機関やタイミングがあるといいと感じます。
- ・ 3歳児健診以降、就学前健診までに子どもの発達状況を確認する手段がなく、幼児になってからの発達で悩み事があっても相談しにくい現状がある
- ・ 3歳児健診と就学前健診との間が長いため、発達が著しい年代のため必要に思いました
- ・ 3歳3か月健診から就学前健診までの期間が長くなるので、5歳児の時にした方がいいと思う。保護者と行政との関係をつなげることができる。
- ・ 年々、子どもの状況も変わり、保護者も就学に向けて不安に思われることも多く、困り感を持つ子も増えてきている。小学校につなげていく為にも健診は必要と思う。
- ・ 就学の前に気になる又は必要な支援が明確にできることで小学校への架け橋になる。
- ・ 視力や聴力の検査が必要だと思う。言葉の発音についても、5歳児健診があれば保護者も相談しやすいと思う。
- ・ 就学に向けて心身ともに心配なことはないか、発達についても医師の目から見た見解等いただきたい。
- ・ ここ近年、特に発音が不明瞭な子が多くなってきている。また集団の中で話を聞いて理解することが難しい子が増えてきている中で、就学前の子どもたちが医療などの専門的な観点から、健診を受けられる機会は大切だと感じる。また保護者の子ども理解にもつながると考える。

- ・ 4歳児から5歳児にかけて集団生活の中で顕著に特性が見られる子どもが近年増加している為
- ・ 3歳半健診で指摘がなかったが、集団になじめない子もいるため。

【不要】と答えた園の回答

就学前健診があるので2回も必要ないから。	1	20.0%
大半の子どもには必要ないから。	1	20.0%
3歳児健診を受けたのち個別にフォローするので十分だから。	1	20.0%
その他	2	40.0%
	5	100.0%

- ・ 3歳児健診を受けている中で、それぞれ個別に声をかけて下さっている為、自園では、3歳児健診での指摘を聞き再受診をして下さったり、経過観察で様子を見たりし、その後の様子も話をして下さるのでこのままの状況でいいように思う。
- ・ 我が子の健診を園に委ねるのではなく、各家庭で親が責任を持って受診することで、健診の意味がある。園は結果の通知のみでよい。

【どちらでもない】と答えた園の回答

運用面がよくわからないため。	2	33.3%
効果があるかわからないため。	2	33.3%
療育機関等を希望しても受け皿が足りなく通所できないのでは。	1	16.7%
その他	1	16.7%
	6	100%

- ・ 就学前健診があるので2回も必要ないとは思いますが、健診を受ける事は必要だと思います。
- ・ 各小学校で行われている就学前健診への助成かと思ってました。
- ・ 大半の子には必要ないと思う。配慮の必要な子や不安を持っている保護者にとっては、安心や支援につながる機会となり、良いと思う。
- ・ 健診内容が発達障害や心身異常の早期発見とのことで、子どもたちのことを考えると実施した方が良いと思う。一方、どういった方法で実施するのか、運用面がいまいちよく分からないのでどちらともいえないとしました。
- ・ 5歳児の集団健診について、小一の壁、幼保小架け橋、連携と言われている中で必要性は感じます。勉強不足で申し訳ありませんが、検査をするにあたって、どの程度の規模の集団なのか。普段と人や場所が変わる環境の中ではたしてどれほど発達の現状について正確に把握できるのか。明らかに発達障害が疑われる子についてはそれまでの健診や保護者あるいは園からの働きかけですでに療育機関等につながっていることが予想される。そうなるとグレーゾーンの子たちを拾い上げていくことになるのかとは思いますが、そういう子たちは保護者の理解を得ることが難しかったりもするのでは。さらに年中児のうちに健診を受けられればいいですが、年長児になってから健診を受けて保護者が療育機関等を希望しても受け皿が足りなく通所できないのでは。

3. 貴園の現状や園での対応を教えてください。

- ・ 嘱託医による健診を実施している。
- ・ キンダーカウンセラーに、月1回来園していただき、アドバイスを受けている

- ・ 毎年の保護者との個人懇談会を通じて、児童の園生活上における課題を伝え、必要であると考えれば巡回相談等を勧める。
- ・ 特にありません。(内科健診、耳鼻科健診、歯科検診のみです。)
- ・ 3歳児健診の事前、事後に保健所と連携をとっている。就学に向けて適切な支援が出来るよう個別対応をしている。
- ・ 年長児を対象に就学前教育プログラムを実施し、毎月の育ちを確認しながら小学校の就学前健診の前月に育ちの確認を行い、気になる事項がある場合は担任や管理職と一緒に保護者と面談を行う。必要であれば、市への発達相談をすすめる場合もある。(※保育園側から発達相談をすすめられることを受け入れがたい保護者も多くいるため5歳児健診でフォローしてもらえないことはとても有難いです。)
- ・ 就学支援シートの活用について、全5歳児保護者に向けての説明をしたうえで、個別に配慮を必要とするお子さんで保護者も悩み感を持っている場合、就学支援シートの作成を勧めている。また、支援が必要なお子さんであるが保護者の受け止めに温度差があり、それまで検査を勧められなかった保護者より、就学に向けての不安な相談等があった場合、発達診断を勧めている
- ・ 日々の保育での子どもの様子。加えて3歳児健診での状況など、保護者との連携を強くしている。又保育園連盟の巡回保育相談を活用して、他機関とつなげている。
- ・ 2歳ぐらいから集団が苦手な子どもは、1対1で別に保育をしている。個別対応をしている子どもでも4歳ぐらいになるとだんだん集団に入れる子もいる。
- ・ 年2回の内科検診 ・気になる子どもは巡回保育相談を受けている。・個人懇談から専門機関への連携を図る。
- ・ 身体的な発達や運動機能等は目に見える部分として、保護者とも共通認識しやすいが、認知や情緒・協調性といった部分についてはなかなか理解してもらえない所があるので、巡回相談やその中での発達検査を慎重に勧めたりしている。長く大変なやり取りを経て、療育に繋がるケースもある。
- ・ 内科検診のみ フォローが必要な園児には、保護者の承諾を得て療育と並行通園している
- ・ 1.巡回相談・園医健康診断・園医相談を実施している。2.精神面の発達に問題を抱えている児童の増加、愛着障害と感じられる児童の増加等、個別対応を必要とする児童には、担任以外に保育者の加配を行っている。身体的な問題としては、肥満・痩せ児童の増加傾向が見られるが、家庭生活の改善など個々の対応が困難である。
- ・ 年長児まで年2回の内科健診を実施しています。その都度健診結果をご報告しています。皮膚の状態、背骨の状態、足の向きなど体全体を見て下さる内科の先生なので、園側も子どもの育ちを確認できる機会になっています。
- ・ 園では年に2回健康診断が行われています。歯科健診もあります。
- ・ 健康診断、歯科健診、検尿を行っている。
- ・ 対象となる年中児・年長児について、内科健診・眼科健診・歯科健診・耳鼻咽喉科健診・尿検査・視力検査・聴力検査(年長児のみ)を実施。発達障害などの心身の異常の早期発見に結びつく健診については実施しておらず、保育園連盟の巡回相談を利用して、アドバイスいただいている。
- ・ 各クラスに発達について気になる子が数名ずついます。保育士あるいは保護者からの働きかけ

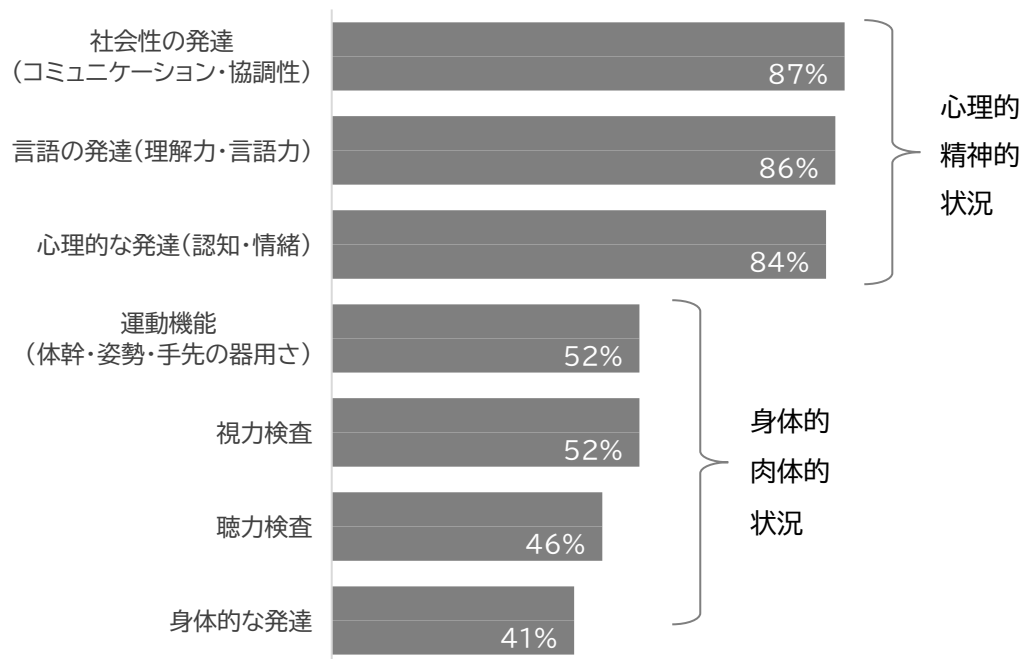
で発達検査へ行ってもらいますが、検査者から「大丈夫だと言われました」ということもしばしば。ただ、そのような場合でもその子が困っていることには変わりがないので、保護者の方と連携を図りながら、その子が安心して生活できる環境づくりを目指しています。

- ・ 気になる子には、個人的に声をかけているが、理解がゆっくりなのか、視力や聴力に問題があるのか、わからない事がある。
- ・ 気になる子に対しては、保護者との関係を壊さないように少しずつ園での状況を伝えている。
- ・ 健診がおわる度にどうだったかという事をお尋ねし、再検査などに行かれる場合は再度結果などを聞くようにし、職員間でも情報を共有し、一人ひとりの子どもの発達状況を把握するようにしている。
- ・ 健診に行くようにすすめている。結果等を個人懇談会等で聞いている。
- ・ 現状を伝えても保護者が受け入れてくれなかったりする。少しでも理解してもらえるように日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築く。
- ・ 言葉遣いや情緒面で心配になる子どもが出てきたこと。保育士の指示の理解がうまくできない子どもが、聴覚に課題があるのか（ex. 聴覚情報処理障害）、認知力の課題なのかがわかりにくいケースがあり、担任から相談を受けたが前者についてのアセスメントはできないため。
- ・ 個人懇談や巡回相談などを利用して気になることがある場合保護者と話す機会を持つ。
- ・ 園児の事で何か気になることがある場合は、こちらから家での様子をお聞きし、受診や専門機関に相談するようにそれとなく促す。
- ・ 視診や様子から早期に対応できるように巡回相談や園内健診（内科・耳鼻科・歯科）で相談をして保護者に伝え保育園でも支援できるようにしていますが、就学前健診で視覚、聴覚、言語において治療や療育が必要と診断されることがあります。
- ・ 3歳児健診後に言葉（発音・吃音）等で気になる園児の相談を受けることが増えてきた。いざ相談に行こうと思ってもなかなか予約が取れないといわれる。
- ・ 歯科・視力・幼児健診は行っているが、発達障害等の健診は行っていない
- ・ 就学前健診で視力に問題があることがその時にわかる。視力検査だけでも園で出来れば良いが現状では実施出来ていない。
- ・ 職員は配慮が必要だと感じる子どもでも、療育等に通われておらず、保護者も子どもの発達に無関心な家庭もある。園での様子を伝え、就学支援シートの提出をすすめても断られる場合がある。
- ・ 園児の姿を職員会議で共有しクラス任せにせず、保育園連盟の巡回相談や窓口相談なども利用しながら保育している。子どもの姿が保護者になかなか伝わらない事もある。
- ・ 3歳児後期健診前に、園での様子を伝える懇談を個別にしていますが、気になるお子さんがそのまま大丈夫ですと言われることが多いです。巡回相談等、相談機関も利用しています。
- ・ 積極的に直接学校へ連絡をしたり、カンファレンスに参加したりしている。
- ・ 5歳児クラスにおいて年2回保護者面談を実施しており、その際に子どもの課題や今後の方針などを相談していますが、発達の遅れについて受け入れられない保護者もいます。
- ・ 3歳児健診で支援は必要ないと判断されても、保育の中で多動、注目行動、言語理解、認知の弱さ、コミュニケーション能力の弱さなどが明確になるお子さんがおります。 保育園では保護者にお子さんは発達に援助が必要だと伝えることがなかなかできません。保護者の信頼関

係が崩れてしまうので、保育現場の配慮などの負担が大きいです

- ・ 3歳児健診後の健診が必要と思うことが多い
- ・ 発育の心配や困りのあるお子様には、園として心配なことは伝えていますが、しかし園に、ドクターや心理士が常にいるわけではないので繋がるのに時間がかかることがあります。
- ・ 発音など、気になる子については、巡回相談など受けて、保育上の助言をいただき、必要だと判断した時は、保護者に伝えている。
- ・ 保健センターと保護者の連携が取れていなかったり、保護者の認識が低かったり拒否されたりすることも多いため、園から保健センターへの連携を取りに行くことが多い。(個人情報の為と拒否されることもある)
- ・ 発達が気になる子どもさんの対応については、家庭との連携が不可欠ですが、中には園に対して反発的な方もおられるので、対応に困る
- ・ 発達的に気になる子どもが増えていることで、保護者の方に子どもの現状を知ってもらいたい。
- ・ 発達面においては、就学に対して心配なお子様に対して巡回相談等で相談している。
- ・ 必要に応じて個人懇談を行っています
- ・ 保育園で気になる様子があれば、保護者に伝える。保護者に健診等の結果を教えてもらう。
- ・ 毎年該当年齢の園児に対して、項目を決めて定期的に健診している。
- ・ 幼保連携型認定こども園に移行した際に「内科健診は年2回必要」といわれたので行っているが、健診費用の補助が1号認定園児に反映されないのは疑問でしかない。
- ・ 希望者のみ新版K式発達テストを受けてもらっていますが、教育熱心なご家庭のみ受けられ(指数の高い問題のない子)、実際気になる子には受けてもらえず、見過ごしている状態です。
- ・ 理解の度合いや発達障害や愛着障害ではないかと疑われる子どもには巡回相談を利用している
- ・ 市の巡回で発達的に気になる園児について見ていただいたり、保護者からの相談を受けて関係機関を紹介したりする、など
- ・ 巡回相談や保護者に児相の発達相談を促している
- ・ 巡回相談を受けたり、発達検査を促し、その子の特性を知り、療育など小集団での支援を受けたり、保護者と園での様子や情報を共有し、連携を取りながら支援を行っている。
- ・ 巡回相談を利用し、気になる子どもの対応に努める。
- ・ 巡回相談等も活用しているが、保護者が直接専門の先生から話が聞ける機会があれば良い
- ・ 保育園連盟の巡回相談の利用や嘱託医への相談
- ・ 療育に通っている園児もいて専門機関との連携を取りながら就学に向けてのアドバイスを受けている。また、集団で生活する中で困り感を持つ園児は巡回相談や窓口相談など専門機関を利用して保護者に伝えたりしている。
- ・ 園で気になった場合は、巡回相談など専門の先生に相談するとともに、就学時には、就学支援シートをすすめ小学校へ情報提供を行う。
- ・ 4, 5歳児になり、しんどさが有る場合は保護者と話をする。また支援シートを利用。
- ・ 支援シートの活用しか手立てがない。

4. もし5歳児健診をするなら何を見てほしいですか。



- ・ 身体の発育状況、栄養状態、精神状態の状況、言語の発達など
- ・ 身体もそうですが、発達面をみてほしい。
- ・ 発達のなところ（理解・言葉の力・コミュニケーション・協調性など）
- ・ 健康状態（視力検査含む）、発達、
- ・ 簡単な会話等を通しての心身の発達。
- ・ 言葉の発達 視力検査
- ・ 発音も含めた言語発達、理解など 身体発達
- ・ 発達状況、それに対する保護者の理解と姿勢、各施設への共有
- ・ 発達検査などを通して就学にあたっての適正具合。
- ・ 視力・聴力・発達の遅れ・言葉
- ・ 視力検査・発達検査・歯科健診・聴力検査など基本的な検査及び保護者の悩みや相談ごとなど
- ・ 視力・聴力・心理発達の状況などを見てほしい。
- ・ 体のゆがみを知る目的で、背骨のゆがみや、肩の位置を見て頂く。学習面の遅れがないか。
- ・ 体幹の整い方、姿勢など全般を診ていただきたいです。
- ・ 視力・色覚検査・言葉の理解・コミュニケーション力・手指先の動き・認知能力等
- ・ 身体的な健康状況は勿論、情緒や社会性などの発達、生活習慣の習得などが分かる検査、もしくは問診。
- ・ 言語理解や発音・体幹の弱さなど
- ・ 就学に向けて必要な発達検査や、保護者への聞き取り。
- ・ 視覚、聴覚、言語、発達
- ・ 言語面（発音）、聴力・視力→就学時健診で引っかかる子が多い
- ・ 発達に関して・言葉(発音)・色覚・視力
- ・ 言語障害、精神発達、社会性の発達等、何かあれば、就学前に今までよりも早く手を打てるの

で良いと思う。

- ・ 理解力、言語力、体幹、視力、聴力など
- ・ 身体的な発育、眼科健診、聴力健診、また、グレーと思われる子ども達も多いので、心理士の先生にも見ていただきたいです。
- ・ 発達における障害など心身の偏りの早期発見
- ・ 発達障害に関する精神発達の状況や言語発達の遅れなどを早期に発見し、就学までに専門機関へつなげ、必要な支援を受けてもらいたい。
- ・ 支援が必要かどうか、特に埋もれてしまっている要支援の子どもの現状を知る。そして今後の参考にしていく。
- ・ 身体面だけでなく精神面での発達をみていただきたい。
- ・ 園で内科・眼科・歯科の健診はあるが、運動機能（体幹の強さや手先の器用さ）や聴覚、言葉遣い、情緒面については、アセスメントをする手段がないので、健診で見てほしい。
- ・ 作業療法などの専門的な観点からのアプローチ。学習障害や発達協調運動障害、ADHD など。感覚過敏などの子どもも増えてるように思います。
- ・ 個別の困りごと（身体的・精神的・知的発達状況等々）の診断や相談から専門機関への連携へのフォロー
- ・ 新版K式発達テスト的な事、認知、運動・姿勢、社会性
- ・ 知的に遅れが無いか、話をきけるか等
- ・ 言葉の理解や発語の遅れ、ADHD や精神発達遅滞の程度等
- ・ 集団での子ども同士のやりとり／見たことを模倣（折り紙や構成遊びなど）
- ・ 社会性に弱さのある子が多いので、そのあたりを見ていただきたい。
- ・ 集団生活の姿を施設と共有しながら、認知・適応・言語・社会性の発達年齢をみて頂きたい
- ・ 相手の立場に立って考えられるか。話を聞いての理解度具合。
- ・ 5歳児健診だけにかかわらず、個人の発達はもちろん、集団での様子もふまえて、その子のしんどさをみていただきたいです。また、3歳児健診を終えてからでも、発音が不明瞭であったり、言葉の理解が弱いと感じる子も多いのでその点も詳しくみていただきたいです。
- ・ 発達の遅れ、人との関係の作りづらさ、こだわり、言葉の発達
- ・ 集団生活の中での社会性の育ちや情緒面の様子
- ・ 集団の中での姿。自分の気持ちを伝えることができるか、友だちとやりとりができるか。
- ・ 発達の遅れがある場合、就学を見越して早めに保護者や保育園でフォローの手立てをとれるように支援してほしい。
- ・ 京都市が実施している3歳児後期健診の5歳児版のようなことを想定しています
- ・ 園児が発達的に抱えている課題が何で、そのためにどのように関わっていくことが必要なのか
- ・ 3歳児健診と同じ内容を希望します。5歳児健診は満5歳児なった時に受けられるようにしていただきたいです。年中児の時に健診を受けて就学するまでに発達の気になるところを援助していくようにすることで、3歳児6か月健診からの切れ目ない子どもの育ちの援助ができると思います。また、保護者の育児の悩み、精神面、虐待、子どもや保護者の衛生面など、子どもだけでなく家庭環境の把握もしていただきたいと思います。